

栃事研会報



第 88 号 平成 28 年 11 月 4 日発行
栃木県公立小中学校事務職員研究協議会
編集発行人 廣田 則子

<主な内容>

- 副会長あいさつ . . . p 1
- 球技大会・栃事研からのお知らせ . . . p 2
- ステージ I 研修報告 . . . p 3
- 栃事研セミナー報告 . . . p 4

栃事研HP <http://tochijiken.org/>

「学校事務の先を見据えて」

栃事研副会長 櫻井 嘉昌

会員の皆様におかれましては、日頃、栃事研の諸活動にご理解とご支援をいただきまして、ありがとうございます。心よりお礼申し上げます。

今年 8 月にはブラジルで、リオ五輪が開催されました。日本は過去最高数 41 個のメダルを獲得し、また、多くの入賞者を出すことになり、皆さんも深夜～早朝へとテレビの前で釘付けになっていたことと思います。水泳男子、体操男子団体、そして柔道、卓球、バドミントンとメダル奪取となり、思い出深い大会となったことはまだ、記憶に新しいことと思います。

この選手活躍の陰にはナショナルトレーニングセンター設立をはじめとする国の先を見据えての施設設備の充実や選手育成プロジェクト事業実施によるものが大きいと言われております。

栃事研も今年 11 月、関プロ長野大会において、「子どもの豊かな育ちを支援する学校事務」～学びづくりは未来づくり、とちぎの学校事務の創造に向けて～というテーマで、経営参画を「子どもの学びづくり」と捉え、事務職員の専門性を活かした経営参画の在り方を「学校経営ビジョン」の実現と策定の 2 つの方向から考えます。今後、学校事務職員が研修等を通して段階的にキャリアアップを図ることで力量形成を図り、新たな変化にも対応できるべき、先を見据えた仕組みと内容で取組むことが、校長の描く学校経営ビジョン実現と参画への必要条件であることを述べています。是非とも、会員皆様一人一人のご理解・ご協力をお願いいたします。

平成28年度 栃木県公立小中学校事務研究大会

「創造しよう！子どもの豊かな育ちを支援する学校事務を」
～アクティブ・アプローチ 子ども学びづくり～

平成28年12月2日(金) 栃木県教育会館



地区発表

南那須地区 「教育活動を支える学校事務を考えよう」

～ 個々の資質向上をめざして ～

全体研究会 I

① 第48回関東地区学校事務研究大会長野大会第2分科会提案報告

② 第68回日本連合教育会研究大会栃木大会第10分科会提案報告

③ 「研修カリキュラム」～事務職員研修のテキスト化について～

全体研究会 II

講師 名城大学大学院 大学・学校づくり研究科教授 木岡一明 氏

第5回栃事研交流事業球技大会



8月18日(木)下野市立祇園小学校を会場に、
第5回栃事研交流事業球技(ソフトバレーボール)大会が開催されました。

今回は、前回は大幅に上回る約90名が参加し、地区・支部で編成された8チームで熱戦が繰り広げられました。試合中は、熱戦の中にも和やかな雰囲気があり、笑顔いっぱいの表情や全力プレー、大きな声援が会場内に溢れていました。また、幅広い年齢層で構成されたチームや、若手中心のチーム、お揃いのTシャツで挑んだチームもあるなど、球技大会を通して会員相互の親睦を図ることができ、とても充実した交流事業となりました。



◇広報部では随時、会員の活用できる事務処理プログラムなどのデータを募集しています。一つのプログラムが多くの会員を支援することになりますので、皆様のご協力をお願いします。

ご提供いただける場合は、
hp@tochijiken.org まで送信してください。ご不明な点は、広報部長までお問い合わせください。

栃事研からのお知らせ

平成 28 年度リーダー(推進会議)研修

平成 29 年 1 月 31 日(火) 学校生協会館

全事研セミナー

平成 29 年 2 月 17 日(金) 北とびあ

平成 29 年度 栃事研研修会並びに総会

平成 29 年 5 月 23 日(火) 教育会館

平成 29 年度 県公立小中学校事務研究大会

平成 29 年 12 月 1 日(金) 宇都宮市文化会館

ステージⅠ (基本的力量形成期) 研修 自己マネジメント

7月7日(木)日光市立東中学校 倉澤 由佳 事務長と
芳賀町立芳賀北小学校 檜山 真美 主任を講師にお迎えし、開催されました。

採用1～3年目を対象に18名が参加し、自己マネジメントについて研修しました。少し緊張気味で研修が始まりましたが、グループ内での自己紹介や“きらきらカード”の交換をすることで、あっという間に打ち解けたムードになりました。

自己マネジメントについての講義では、事前課題で考えた、どんな事務職員になりたいか未来の自分を想像しながら、真剣に耳を傾けていました。その後のグループワークでは、それぞれが抱える悩みや課題を共有し、みんなで解決策を探りました。各グループには、採用2年目の事務職員の方にも参加いただきました。1年目を乗り切った体験談を話していただいたり、アドバイスをいただいたりすることで、参加者は課題解決に向けた具体的な取組をイメージすることができたようです。また、採用2年目の方にとっても、自身の体験を伝えることで、自己の振り返りをし、課題解決の方策を新たに考えることにつながり、次のステージへ進む足がかりになったと思います。

講義の中で、自己マネジメントをする上では自分を知ることが大切だと話がありました。また、自分の強みを生かすことでそのサイクルがうまく回るとの話もありました。自分の強みを書き記すことは難しいことです。しかし、先輩の話として、日光市立落合東小学校 笠原 淳 主任の講話を聞いたり、グループのメンバーから最初にもらった“きらきらカード”を参考にしたりして、それぞれ自分のもっている強みについて考えることができました。その中で外的な強みとして『地域学校園事務室』や『共同実施』などでの支援が受けられることや、先輩事務職員・ベテランの事務長が近くにいる疑問点などをすぐ聞けることを多くの方があげていました。これは各支部での支援・指導体制が整っている証拠でもあると思います。

そして、研修の終わりに実行宣言として、自分が使える資源や生かせる強みなども考えて実践目標やその内容を記入しました。その表情には、笑顔とやる気があふれて見えました。

参加者からは「自分と同じような悩みがあるのだと安心しました。」「自分だけが悩んでいると思っていたことを他の人も同様に悩んでいることを知って安心したり、他の人の課題を聞いて自分も改善しなければならない点に気付いたり、とてもよい経験になりました。」などの感想をいただきました。

知識が少なくコミュニケーションをとるための自信がもてない、疎外感を感じることがある、教育活動を理解した上での優先順位が付けられない等、経験年数が浅いこの時期だからこそその悩みや課題はたくさんあります。しかし、日々の不安を分かち合うことができただけでも価値のあることだったと思います。さらに「課題や困っていることを共有してみんなで考え、多くの解決策のアイデアが出たので前向きな気持ちになれた。」「悩みや課題を共有し課題策を提案し合うことで前進している実感ももてた。」など、協働することの良さや素晴らしさに気付くこともできたようです。

日々の業務をこなしながら、目標をもち、課題をもち、一つ一つ解決していくことでステップアップできると思います。「なりたい事務職員」に一步一步近付いていけるといいですね。



第14回析事研セミナー

8月9日(火)講師に豊橋市教育委員会教育部教育政策課事務指導主事

風岡 治 先生 をお迎えし開催しました。

若手の主事からベテランの事務長まで、幅広い経験年数の事務職員、52名が参加しました。今年度のセミナーは、私たちが日頃行っている「学校評価」をテーマに事務職員の学校経営参画について考える機会としました。

午前中の講義では、学校評価の現状と課題、そして今後の展望について講話をいただきました。

学校評価が現在のものに至るまでの経緯から、より良い学校評

価とするためには何が必要なのか等、細かにお話をしてくださいました。普段当たり前のように行っている学校評価ですが、その背景や、実際に他県で行われている取組について聞くことで、学校評価に対する理解が深まったように思います。受講者の皆さんは、頭を悩ませながらも、メモを取りながら真剣に傾聴している様子が伺えました。



午後の講義では、経験年数を基にしたグループに分かれ、ケースメソッドを活用した演習を行いました。架空の学校の学校経営計画、学校評価報告書を読み解いた上で、グループのメンバーそれぞれが校長・教頭・事務長・教務主任・PTA会長の役を担いロールプレイをしながら、読み取った課題をどのように解決したらよいか、話し合いました。「校長先生はきっとこういう考えで経営計画を作っているはずだ。」「PTA会長として教頭先生にこんな質問をぶつけてみよう。」と、役になりきり行う話し合いはとても新鮮で、どのグループも大きな盛り上がりを見せていました。普段と違う立場に立ってみると、事務職員の立場からは思い浮かばなかった考えや、問題点が浮かび、新たな視点の気づきとなったようです。

そして事務職員の立場に戻り、学校評価において事務職員の役割は一体何か、という点についてグループで話し合いをしました。「事務職員として出来ること」を班の中でそれぞれ出しあい、グルーピングをし、模造紙にまとめました。その後の発表では、財務情報・評価分析・コミュニケーション・地域連携等たくさんの意見が出され、共感もあれば新たな発見もありました。どの班も経験年数に応じた素晴らしい発表でした。

様々な経験年数の事務職員が参加する今回の研修では、全員が理解し、納得することは非常に難しいと思われましたが、受講者からは「分かりやすい講義だった。」「事務職員としての関わり方を学べた。」「チームとして、評価の立案の段階から関わっていききたい。」といった声があがっていました。ロールプレイで別の立場に立つことで、より一層“事務職員として”の役割について深く考えられたのではないかと思います。また、具体的な事例を使ったことで、その課題が解決に至るまでの策や手法にも目を向けることができました。今後、事務職員として各学校で学校経営参画をしていく一助となったことと思います。

